

福島第一原発事故の経験を踏まえた原子力安全の強化

チェコ・日本共同セミナー

2016年2月15日

チェコ産業貿易省及び日本経済産業省は、福島第一原発事故から得た知見・教訓についてのセミナーを、2016年2月9日に開催しました。

このセミナーは、2014年11月に日本を訪問したムラーデック産業貿易大臣と宮澤経済産業大臣との間で締結された原子力分野での協力の覚書きに基づいて、2015年5月に高木経済産業副大臣がチェコに訪問した際、提案されたものです。

チェコ及び日本は、石炭を除いて主たるエネルギー資源を有さない国であり、両国は原子力を一つのベースロード・エネルギー源として活用する国でもあります。福島事故を受け、日本は原子力を段階的にゼロにする政策をとりましたが、昨年エネルギー・ミックスが改訂され、今後も引き続き重要なエネルギー源として利用することが確認されました。そして原子力への信頼回復のため、安全対策が大きく強化されました。チェコも同様、改訂エネルギー政策の中で、原子力はエネルギー源の多様化の観点からも重要なエネルギー・ミックスの一つとして利用していくことが確認されています。

「原子力は世界で既に60年にわたり利用されてきており、COP21での合意に基づくCO2排出削減に貢献する再生可能エネルギーと並ぶ重要な電力源である」とコバチョフスカ産業貿易副大臣は指摘しています。

スリーマイル島(1979年)、チェルノブイリ(1986年)、福島第一(2011年)の事故は、現在稼働している原子力発電所、また今後新たに設計・建設される原子力発電所双方の安全性強化のための大きな原動力になりました。

本セミナーには、福島事故を受けて強化された安全対策に関係した様々な分野一政策担当者、規制当局、電力事業者、プラント・サプライヤー、研究者及び保険事業者を含む一の専門家など約100人が欧州及び日本より集まりました。世界の原子力の安全性確保に貢献することが期待されます。

チェコ共和国産業貿易省

日本国経済産業省

在チェコ共和国日本国大使館

■セミナーの様子（会場：チェコ中央銀行／プラハ）



ビデオ“Fukushima Today -Towards New Horizons-”



尾本東京工業大学特任教授の基調講演



ホルプツォヴァ外務省エネルギー安全保障特使補佐官（司会）・山川大使・上田経済産業審議官
・コバチョフスカ産業貿易副大臣・ガリバ欧州委員会原子力安全 ITER 局長・尾本教授